第７２回東北経営者大会

～東北の連携を深め魅力ある雇用創出へ～

第７２回東北経営者大会が 10 月 18 日、秋田市の秋田ビューホテルで東北 6 県から経営者協会会員など約 500 名が参加し開催された。大会は１０月の台風１９号により被災され、亡くなった方へ黙祷を捧げた後、秋田県経営者協会湊屋会長が「この大会で経営者が抱える問題を取り上げ、その解決の糸口を見出したい。」と開会の辞を述べ、続いて東北経営者協会の海輪会長が「東北 6 県の経営者が連携を深め、一丸となって復興創生に取り組む決意を新たにしたい。」と主催者挨拶を述べた。来賓の川原秋田県副知事の祝辞の後、午前は菊池昇氏の講演、午後より各経協会員による意見交換、大会決議を採択の後、片野坂真哉氏の特別講演で大会は盛会裏に終了した。

大会終了後、同ホテルに於いて懇親パーティーが開催され、秋田の地酒、郷土料理等を楽しみながら和やかなパーティーとなった。次回は宮城県で開催される。

湊屋秋田県経営者協会会長開会の辞（要約）

「働きやすい職場づくりが社会的に大きな注目を集め、働き方改革関連法の成立により順次施策が進められている一方で少子高齢化に伴う就労人口の減少に歯止めがかからず、東北地方においては顕著なものになっている。経営者協会は長年にわたり労務問題に取り組んでおり、本日は、経営者が抱える身近な問題を取り上げながら、その課題の解決への糸口を見出したい。また、東北経営者協会の提言を決議にまとめ、地域発展への力強い弾みとしたい。」

海輪東北経営者協会会長主催者挨拶（要約）

「東北を取り巻く様々な情勢に対して地方企業の育成強化が求められており、産業の創出に加え働き方改革を徹底的に進めていく必要がある。

そこで今回は、「働きやすい職場環境の整備と新たな価値の創造」をテーマに意見交換を行いたい。また、百年に一度といわれる技術革新の時代の中、急速な労働人口の減少に直面している地方経済を、どのように活性化させていくべきかご講演講師のお話に期待したい。この大会プログラム全体を通じて東北６県の経営者が連携を深め、東北が一丸となって復興・創生に取り組む決意を新たにしたい。」

川原秋田県副知事の祝辞（要約）

「最近の経済の先行き予測困難な状況、雇用面の状況等を踏まえ、秋田県は成長分野への新たな事業展開、地域経済を牽引する中核企業の育成を重点的に取り組んでいる。とりわけ中小企業については企業の意欲的な取り組みをサポートしている。

経営者協会には、あらゆる業種の企業が結集する経済団体として、企業活動の基盤となる労使関係の健全な発達、発展はもとより経営者相互に交流、連携、人脈づくり、その他産業経済基盤の整備に積極的な取り組みを期待します。」

講　演　　『車の電動化と知能化による地域社会への変化』
㈱豊田中央研究所代表取締役所長　菊池　昇　氏

講師の菊池氏は秋田県大仙市出身。トヨタグループの豊田中央研究所（愛知県）で代表取締役所長、ミシガン大学名誉教授を務めている。

今回のテーマは、**「車の電動化と知能化による地域社会への変化」。**映像を用いながら約一時間にわたり講演を行った。

始めに「経営者の皆さんに学者の自分が伝えたいことはたった１つで、単一の企業群に頼ってしまう地方、地域はその産業とともに衰退してしまうこと。地域、社会、特に街は、住民の総意で長い時間をかけてゆっくり築き上げていくもの。」とアメリカでの体験を踏まえ、地域社会の在り方について考えを述べ、続いて「自動車業界はいま大きな変革期を迎えている。次世代技術を無視した形で自動車は考えられない。私たち自身が大きな変化をしていく必要がある。技術革新が時代も人も国もすべて変えてしまう。」と述べた。「自動運転を研究している理由は安心・安全以上に安心と利便性を自動車で実現したかったからで、単なる移動手段としてではなく街に賑わいを創ったり必要なエネルギーや情報を運んだりする役割を持たせていきたい。」と強調し、これからのチャレンジとして燃料電池車の開発を挙げ、地域社会が特徴を生かしたモビリティーを活用できるよう日本を、良い街づくりをしたいと結んだ。

特別講演　『東北がより元気になるために~ANA グループの挑戦の『志』～』
ANA ﾎｰﾙﾃﾞｨﾝｸﾞｽ㈱代表取締役社長・（一社）日本経済団体連合会副会長　片野坂　真哉　氏

特別講師の片野坂氏は 1979 年全日本空輸株式会社入社
2012 年専務取締役執行役員、2013 年ＡＮＡホールディングス株式会社代表取締役副社長執行役員、2015 年より現職。日本経団連副会長。
鹿児島県出身。

今回のテーマを**『わきたつ東北のために~ANA グループの挑戦の『志』～』**に変更。既に元気な東北に失礼と理由を述べ、映像を用いて約５０分の講演となった。

始めにＡＮＡグループの概要、成長の軌跡。飛行機の進化について述べた後、東北との関りについて触れ、「2013 年より「Tastes of Japan by ANA 」という３県ずつ、毎３か月間その地域の観光、食材、酒を３本柱にプロモーションしていく取組みを行った。食材、酒は機内食、ファーストクラス、ラウンジで使用し、各自自体の商工部、観光部にお世話になった。来年６月から半年間、再度東北エリアで予定しており、いろんな県を回ってもらえるようなプロモーションに力を入れたい。」と述べた。

また、地方創生の一環で各県と連携協定を結び、地域活性化、社会貢献、災害時の支援や人材の派遣を行っていることを紹介した。最後に、これからの ANA グループの取組みとして①MaaS 戦略、②ANA　AVATAR（瞬間移動）を紹介し、「物流、観光プロモーションを通じて東北との関係を一層深めていきたいと」と結んだ。

意　見　交　換

テーマ「働きやすい職場環境の整備と新たな価値の創造」

・「誰もが働きやすい職場環境の整備」

【報　告】　㈱東北銀行執行役員人事部長　　小枝指　重　夫　氏

【コメント・質問】弘前ガス㈱代表取締役社長　　齊　藤　嘉　春　氏

・「“働き方を誇れる成長企業№１”を目指して」

【報　告】　㈱ユーメディア取締役経営企画本部担当　　今　野　彩　子　氏

【コメント・質問】㈱大風印刷　代表取締役社長　　大　風　　亨　　氏

・座　長

（一社）秋田県経営者協会会長　　湊　屋　隆　夫

・コメンテーター

東北経営者協会会長　　海　輪　　誠

東北経営者協会副会長　　藤　﨑　三郎助

東北経営者協会副会長　　佐　藤　安　紀

※ 挨拶・講演・および意見交換の詳細内容は「大会記念誌」に掲載予定です。

決　　議

東北地方の経済は、一部に弱めの動きがみられるものの、全体として緩やかな回復基調が続いているとされている。

しかしながら、政府が定めた震災の「復興・創生期間」が、来年度末の終了を迎える中、震災避難者はようやく５万人を割ったものの、今なお約４万９千人もの方が避難されており、また、未だ根強い風評被害が残るなど、復興は道半ばの状況にある。

さらには、東北地方では、人口減少・少子高齢化が全国で最も早く進展する中で、雇用のミスマッチや人手不足が極めて深刻な問題となっている。

こうした状況のもと、本日、秋田市で開催する第７２回東北経営者大会において、我々東北の経営者は、次のことを決意する。

１．地域の自立的な成長・発展に資する産業を育成し、若者の地元への還流・定着を促す魅力ある雇用を創出できるよう東北各県の経営者協会が連携し、一体となって「新しい東北」の実現に向けて取り組む。

２．人口減少・労働力不足に直面している今こそ、高齢者、女性、障害者、外国人材など、誰もが働きやすい職場環境を整備するとともに、個々の働き手のやりがい、働きがいを高め、イノベーションの創出と労働生産性の向上に繋がる組織づくりを推進する。

また、次の諸点については、政府および関係機関に対し、実効ある取組みを強く要請する。

１．住宅再建やまちづくりは一定の目途が立ってきたものの、風評被害の問題が依然として残り、被災地の復興は未だ道半ばであることから、復興・創生をさらに加速するために、復興庁後継組織の実効性ある体制構築、継続的な財源確保を図ること。

２．自然災害が激甚化する中、レジリエンスすなわち強靭性の観点に立ち、大都市一極集中から地方分散化を図るためにも、その受け皿となる地方企業の育成に向けた支援を強化すること。

３．東北の持続的発展に向け、最先端技術である加速器分野に関するプロジェクトやイノベーション・コースト構想等の政策を強力に推進すること。

４．地域との交流・連携を強化し、産業・経済・観光等、東北全体の活性化に繋がり地方創生へと直結する高速道路網について、災害時における交通ルートの多重性を確保するためにも、未整備区間の解消に向け、整備促進を図ること。

以　上

令和元年 10 月 18 日

第 72 回 東北経営者大会

大会決議
齋藤副会長

次期開催地挨拶
海輪東北経協会長（宮城県）

大会閉会の辞
新田副会長

懇親パーティー（光琳の間）

開宴挨拶
須田副会長

祝　辞
石井秋田副市長

閉宴の挨拶
小畑副会長